

## 令和3年度自己評価表

(西条農業高等学校)

学校番号( 10 )

|      |   |      |   |
|------|---|------|---|
| 教育方針 | ふるさとを愛し、社会の変化に柔軟に対応して、地域の豊かな未来を主体的に創造する担い手を育てる。汗を流し命を育む農業教育を通して、豊かな感性と困難を乗り越える強い心意気を養い、専門的な学びを深めて社会に貢献する職業人を育成する。 | 重点目標 | 地域に愛され、地域を愛し、地域とともに歩む西農<br>—100年分の感謝と新たな飛躍— |
|------|---|------|---|

| 領域   | 評価項目        | 具体的目標   | 評価     | 目標の達成状況   | 次年度の改善方策  |
|------|-------------|---|--------|---|---|
| 学習指導 | 学習習慣の確立     | 教科の宿題・課題をきちんとこなすなど、家庭学習を習慣化させる(平日1時間、考査中2時間以上)。   | B      | 家庭学習は2学期の考査中、1年生が76分、2年生139分、3年生94分、全体で103分であり、残念ながら目標には到達しなかった。1・3年生の学習時間が昨年の数値より下がったのが残念である。3年生は進路も決定し、安心した生徒が多かったのではないかと想像される。最終学年としての姿勢や責任感を養う指導が必要となる。 | 今年度の生徒の様子を見ると、学習習慣もさることながら、学校中心の基本的な生活習慣が身に付いていない生徒が多いように感じる。授業あるいは実習の中で、学ぶことの楽しさや意義をどのように体験させることができるか検討したい。また、学年が進むにつれて高い数値を残せるよう、進路実現に向けての意識付けや態度の育成を早い段階から行っていきたい。 |
|      | 学習の質の向上     | ICTの利用等で効果的な学習を实践するなど授業満足度の向上を目指す。また、各学期末の授業アンケートを基に授業改善に各教科で取り組む。  | A      | 生徒一人1台端末の整備も完了し、本格的な運用が始まった。会議アプリを活用した学習活動もほとんどの生徒が問題なくできている。<br>授業アンケートや教育相談アンケートなどでも一人1台端末を活用した実施方法を確立できた。  | 次年度以降も一人1台端末の活用をオンライン授業の研究も含め推進していく。<br>授業アンケートを積極的に分析・活用し、検証することで授業改善につなげていきたい。  |
|      | 読書指導の充実     | 授業との連携を図り、一人当たり貸出冊数3冊以上を目指す。<br>朝の読書を充実させ、静寂の中で全員が読書を行うよう指導する。  | B      | 授業やホームルーム活動との連携においては、概ね達成できたと考えている。しかし、貸出冊数は増加傾向にあるが、目標としていた一人当たり3冊には及ばず、2冊を少し上回る程度にとどまっている。  | 司書教諭が図書の整備をできる時間が確保できず、整備が不十分であることを踏まえ、来年度は、引き続き勤務の効率化などを積極的に進めていきたい。また、授業との連携においては予算内ではあるが、課題研究などで使用する専門書の購入を考えたい。   |
| 生徒指導 | 基本的な生活習慣の確立 | 生活のリズムをしっかりと作り、出席率95%を目指す。A:95%以上、B:94~85%、C:84~75%、D:74~65%、E:65%未満<br>身だしなみ指導1回目での合格率90%以上を目指す。A:90%以上、B:89~75%、C:74~65%、D:64~50%、E:50%未満 | A<br>C | 新型コロナウイルスの影響で出席状況は不安定であったが、担任の先生方の丁寧な指導により1月現在で95.3%の出席率を確保した。<br>身だしなみ指導に関しては時期、学年によって差があるが、直近の2回平均で69%の合格率であった。長期休業明けの合格率が低かった。                           | 社会の状況は来年度も大きく変わることはないと考えられる。そうした中で新しい生活習慣を早く確立し、支援していくことが必要となる。オンライン授業なども視野に、在宅での生活リズムをいかに指導するか検討したい。身だしなみについても事前告知を徹底し、各自の責任感を高める声かけを行っていきたい。                        |
|      | 規範意識の高揚     | 問題行動発生件数0を目指す。<br>あいさつを励行し、毎週生徒会役員によるあいさつ運動を実施する。   | C      | 問題行動は1学期が5件、2学期が3件、計12名の指導があった。夜間の問題行動が多く、自宅での過ごし方を改善する必要がある。<br>生徒会活動の一環として毎週水・金曜日にあいさつ運動を行った。   | 学校の目が届きにくい校外での問題行動に関しては、各家庭との連携を強化していく必要がある。昨今の社会情勢から自宅で過ごす時間が増加しており、より一層の規範意識の向上とともに、家庭での教育力も重要になる。担任の先生方との連携はもとより、家庭との連携を強化していきたい。                                  |
|      | 学校行事・部活動の充実 | 部活動の活性化(加入率90%以上)を推進し、併せて学校行事やボランティア活動等への主体的な参加を促し充実させる。A:90%以上、B:89~75%、C:74~65%、D:64~50%、E:50%未満  | B      | 学校行事については様々な変更があり対応が難しかったが、実施面での工夫によって概ね実施することができた。部活動については、2学期末現在で約86%の加入率であった。  | 今年度は部活動や学校行事において様々な制約が課されることが多く、予定していた活動が十分行えなかったのは残念である。生徒が充実した学校生活を送れるよう、来年度はさらに工夫して実施していきたい。   |
| 教育相談 | 生徒との面談時間の確保 | 表情が気になる生徒がいたら声をかけ、少しでも不安を減らし、安心した学校生活を送れるよう手助けする。要配慮の生徒に対しては、学校への所属感を持つよう、可能な限りの支援を行う。  | B      | 心理検査の導入で生徒理解が深まり、様々な教員の関わりにより、より支援がしやすくなった。3学期からは教育相談アンケートをタブレットで実施したことで、今まで以上に生徒の本音を引き出した。   | 要支援の生徒が増える中、より個々の特性に応じた支援を学校全体として提供できるよう配慮したい。生徒健全育成に関わる規程集の見直しを図り、全ての生徒が学校への所属感を持ち、安心して学べるような体制を整えていきたい。   |

|      |                                    |  |   |   |   |
|------|------------------------------------|--|---|---|---|
| 進路指導 | 進学指導の充実                            | 課外への出席率100%を目指し、学びに向かう学力を高めさせる。<br>オープンキャンパスへの参加率100%を目指し、最適な進学先を選択させる。  | C | 進路課外への出席率は教科平均81%で、昨年より13%低下した。生徒の希望を優先した結果、進路先とのミスマッチングや安易な選択、学校生活への不適応な生徒の選択があり新学期早々からの欠席者が何名かいたことが原因である。   | 進路課外について、今後も生徒の希望に合わせて個別指導を行う。また進路課外を選択する際、明確な進路目標の決定等の事前指導をしっかりと行いたい。進路課外の内容も、学び直しではなく、受験対策として生徒の受験校のレベルに合わせた授業の発展的な内容にする必要がある。  |
|      |                                    | 第一志望への進学100%を実現する。<br>A:100%、B:99～80%、C:79～60%、D:59～50%、E:49%未満  | A | 進学者は早期から進路先を決定しているものが多い。コロナ禍であるが2年次からオープンキャンパスに参加するなど、受験までには全員がオープンキャンパスに参加している。<br>第一志望校への合格率は100%であった。  | コロナ禍での進学情報の収集や大学入試改革に伴うさまざまな変更に柔軟に対応していきたい。   |
|      | 就職指導の充実                            | 応募前見学への参加率100%を目指し、職業観を確立させ、企業とのミスマッチをなくさせる。<br>第一希望職種(企業)への内定率100%を実現する。<br>A:100%、B:99～80%、C:79～60%、D:59～50%、E:49%未満   | A | 応募前見学には学校斡旋就職希望者全員が参加し、参加率は249%と、1人当たり2～3社参加した。学校斡旋就職は内定率100%であった。公務員は3名、延べ6官公庁に合格し、内定率100%であった。就職希望者全員が第1希望の職種への内定が決定した。   | 生徒に適性や能力など自己理解を深めさせ、進路目標を持たせる指導を行う。また早期から職場見学やインターンシップに参加させ、職種や企業理解をさせることでミスマッチングや早期離職がないよう適切な指導を継続する。今後とも企業との連携を深め、生徒が希望する就職先の開拓を続けたい。   |
| 農業教育 | <食農科学科><br>地域との繋がり、専門教育・研究活動の充実    | 生徒の地域活動への参加を通して、自己の知識・技術の深化を進める。地域活動への参加率100%を目指し、コミュニケーション能力を高める。<br>A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:50%未満<br>積極的・意欲的にプロジェクト学習に取り組みさせることで、人間力を養う。<br>各部門校内大会への参加率100%、外部コンテストへの応募5点以上を目指す。<br>A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:50%未満 | C | イベント・交流会の開催が流動的となり、地域活動への参加が難しく全体の68%にとどまった。専攻班の少人数実施で参加生徒に偏りがでた。<br>校内大会は100%の参加率であった。外部コンテストの応募は、全国規模の11コンテスト、計22点であった。   | 今年度大きな成果を上げた部門もあり、生徒の成長につながるものであった。さらに交流会やイベントへの参加により、専攻班での高まりを目指したい。しかしながら部門ごとに差があるので、継続した取組は行いつつ、生徒の現状や教員の校務分掌、授業時間数にあった現実的な課題を設定したい。   |
|      | <環境工学科><br>地域との繋がり、専門教育・資格取得の充実    | 地域人材を活用して国家資格や各種検定等の合格率80%を目指す。<br>A:80%以上、B:79～70%、C:69～60%、D:59～50%、E:49%未満<br>各種コンテスト等に積極的に取り組み、5点以上応募する。<br>A:5点以上、B:4点、C:3点、D:2点、E:1点   | C | 学科関連の資格の合格率は64%（国家資格合格人数は土木施工6名、造園施工1名、造園技能士8名）、各種コンテストの応募数は9点（のべ21人応募、入賞数は9）であった。少しずつではあるが前向きに取り組む生徒が増えつつある。   | 様々な状況を想定して、各種資格試験や農業クラブ活動、各種コンテストへの応募の計画を立てていく。会議アプリなどの手法を取り入れた学習活動を実践する。コンテストへの応募者には偏りがみられるため、多くの生徒が積極的に取り組めるように声かけを行う。  |
|      | <生活デザイン科><br>地域との繋がり、専門教育・資格取得の充実  | アクティブラーニングを推進し、学びに向かう人間性を育成する。<br>基礎・基本的技術を定着させ、家庭科技術検定合格率100%を目指す。<br>一人1台タブレット端末を活用した授業を積極的に実施する。学校情報化認定のチェックでレベル2以上を目指す(学科内で測定)。  | B | アクティブラーニングの推進も十分行うことができ、一人1台端末を活用することで学習内容を多く発信することができた。<br>家庭科技術検定合格率は和服1級で100%、調理1級は58%であった。学校情報化認定のチェックでレベル2.15(学科内で測定)。   | 一人1台端末を学科内全ての教員が使いこなし、生徒主体の学びが実践できるように研修会を実施して教員のレベルを向上させたい。<br>家庭科技術検定の不合格者に関しては学科試験による不合格も多く、学科試験対策等にもタブレット端末を活用するなど、個別最適化した学習を取り入れていきたい。<br>昨年度の課題で提起したオンライン交流が実施できていないので来年度こそ実施したい。                             |
|      | <農業クラブ活動><br>農業クラブ活動の活性化           | 行事の案内や競技結果を公表し、各種諸行事への積極的参加を呼びかける。また「新しい生活様式」に適應した運営を行う。<br>県大会での入賞率50%以上、全国大会での入賞100%を目指す。<br>(県大会) A:50%以上、B:49～40%、C:39～35%、D:34～30%、E:29%未満<br>(全国大会) A:100%、B:99～80%、C:79～60%、D:59～50%、E:49%未満                    | B | 各種行事は必要に応じてオンラインや規模縮小にて開催され、例年のような活気ある活動が戻りつつあるように思う。校外の競技会もほぼ例年通り開催され、県大会の入賞率は46%（フラワーデザイン競技 優秀1、家畜審査競技 優秀2、平板測量競技最 優秀1、第1回各種発表プロジェクト発表の部 最優秀1、同意見発表の部 最優秀1）、全国大会の入賞率は20%（平板測量競技 優秀1）であった。 | 西農祭など競技会以外での場面でも全校を挙げて農業クラブ活動を盛り上げることができているが、一方で校外の大会では感染への不安により生徒からの出場辞退もみられた。より安心して競技に臨めるよう運営事務局と協議していきたい。<br>また、全国大会の評価について、プロジェクト発表や意見発表のように地区予選会を経た競技とそうでない競技では入賞の難度が異なるため、評価方法を分ける等、実際に即した自己評価となるように変更していきたい。 |
| 総務   | P T A活動の活性化と広報活動の充実<br>校内諸行事の円滑な運営 | 保護者が学校行事へ積極的に参加できるよう、行事内容を工夫し、出席率の向上を図るとともに広報活動を充実させる。<br>各部・各課との連携を強化し、各種諸行事の充実を図る。   | C | 2年続いてPTA総会や産業祭など多くの行事が中止・規模縮小となったが、様々な工夫をし、できる範囲での活動はできた。各種研修会も多くが中止となり、参加できる範囲での活動となった。  | 今年度同様に情報共有ツール等を活用し、全ての保護者に確実に緊急連絡が届く体制を構築する。また各種行事への参加については、出席できる範囲での参加を呼びかける。コロナ禍での行事の在り方を教職員と保護者が一丸となって検討し、取り組みたい。  |

|            |                        |   |   |  |   |
|------------|------------------------|---|---|--|---|
| 環境厚生<br>事務 | 美化意識の高揚<br>地域への貢献      | 地域へのボランティア活動を年2回実施する。<br>地域に役立てる人材を育成する。  | B | 様々な制限の中、感染対策の工夫をし、地域との関わりを持つ行事を行えた。また、防災士の資格を取得し、地域貢献をしたいという気持ちをもった生徒が少しずつ増えている。                                     | 今年度同様、厳しい状況が予想されるが、できる範囲でのボランティア活動を実践し、地域貢献できる生徒を育成していく。                          |
| 研修         | 校内外研修の充実とICT活<br>用力の育成 | 基礎研修の充実を図り、教員のライフステージに応じた資質・能力の向上・定着を図る。<br>校内外における研修を充実させ、教員の資質向上を図るとともに、ICTを活用した双方向授業の方法等を研究する。 | C | 各キャリアステージに合わせた研修の支援を行った。今年度の研修は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンラインや中止になったものも多々あり、変更にも迅速に対応できた。                               | 今年度同様、各キャリアステージに応じた研修支援を行う。来年度もオンライン研修が実施されることが予想されるため、校内研修のさらなる充実を図る必要があると考えている。 |
| 人権教育       | 人権・同和教育の充実             | 人権・同和教育についての研修や情報発信の充実を図り、生徒の自己肯定感や人権意識の向上を図る。  | B | 人権問題に関する啓発資料などの情報について、適宜教職員や生徒に提示することができた。研修については、コロナ禍の中で中止になったものも多く、十分ではなかった。                                       | 生徒の自尊感情の育成や他者の尊重、教職員の人権意識の向上が図れる教材の提供や研修内容のさらなる充実に努めた。                            |
| 業務改善       | 勤務時間の適正化               | 業務の効率化に努めるとともに教職員全体の更なる行動改革を進め、適正な勤務時間に対して積極的に評価する。   | B | 校務支援システムやメッセージ機能等を有効活用することで、業務の効率化を進めることができた。勤務状況一覧表や目標チャレンジ制度等の面談を活用して、さらなる勤務時間の適正化を呼びかけるとともに的確な評価、アドバイス等の言葉がけを行った。 | 時間の有効活用の研究・工夫を重ね、教職員全体の意識改革や勤務時間の適正化に対して的確な評価をさらに進めた。                             |
|            | 職場環境の整備                | 教職員との健康相談や面談を定期的に行い、心理的負担を軽減する。   | B | 勤務状況一覧表や目標チャレンジ制度等の面談を活用して、教職員の本音を聴取する機会を多く持った。  | 教職員安全衛生委員会の活動を活発化させ、教職員の気持ちに寄り添う体制を堅固なものにしていきたい。                                  |

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。